

アルゴリズムとデータ構造

第5回 高速なソート

第5回のキーワード

2

アルゴリズム関係

- クイックソート
(quicksort)
- ピボット(軸)
(pivot)
- 分割統治
(divide and conquer)
- マージソート
(merge sort)
- $O(n \log n)$

Java関係

- 無限ループ
 - ▣ while(true)
 - ▣ for(;;)

クイックソート

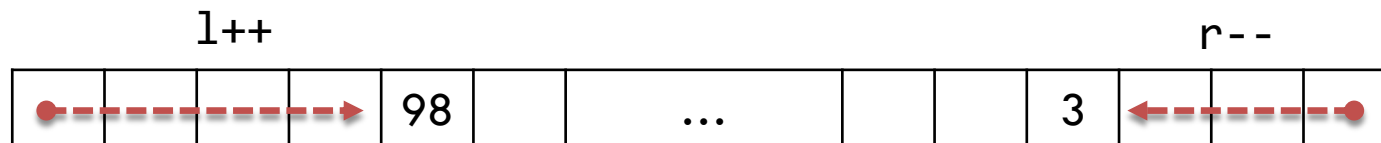
3

□ アルゴリズム

- まず配列の中の適当な要素をピボット (pivot, 軸) に選ぶ
- 配列の中のピボット以下の要素を左側, ピボット以上の要素を右側に寄せて, 配列を左右2つの部分配列に分割する
- さらにそれぞれの部分配列に対しても, 再帰的に同様の処理を適用して分割していく
- すべての部分配列の要素が1つになるまで分割を繰り返すと, 配列全体のソートが完了する

□ 代表的な分割方法

「以下」と「以上」なのは
オーバーランを防ぐため



左端から順にpivot
以上の要素を探す

交換

右端から順にpivot
以下の要素を探す

確認問題

5

- クイックソート
 - 右はa[left]~a[right]の中で、ピボット以下の要素は前半、以上の要素は後半に集めるコードである。適切に空欄を埋めて完成させよ。
 - クイックソートで下記の配列を並び替えたときの内容の変化の過程を図示し、値の比較と交換の回数を述べよ。

4	1	3	5	2
---	---	---	---	---

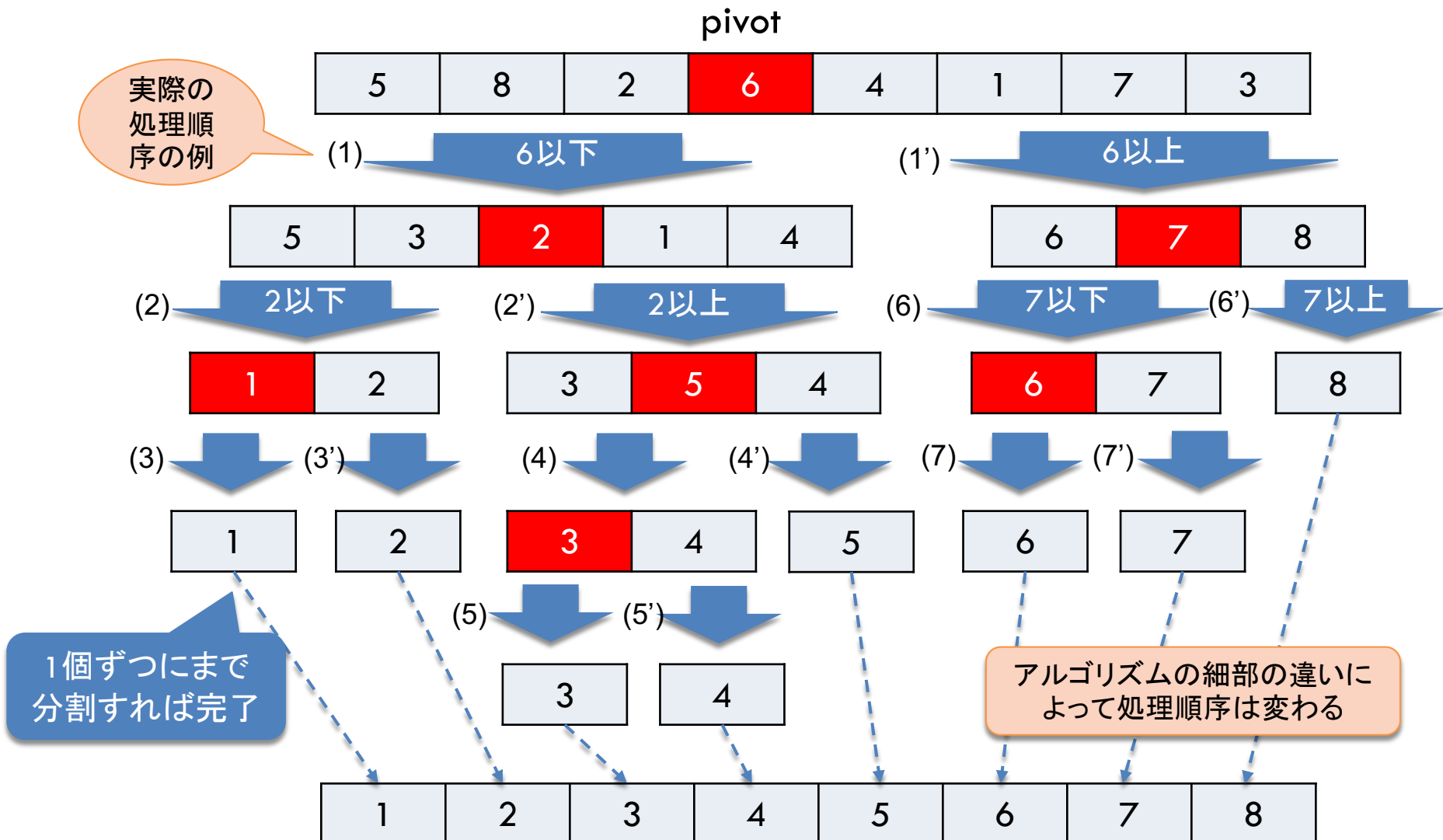
```
int l = left, r = right;
while (true) {
    while (a[l] < pivot) {
    }
    while (a[r] > pivot) {
    }
    if (l >= r) break;

    double t;

    l++; r--;
}
```

クイックソートの処理順序の例

6



マージソート

7

□ アルゴリズム

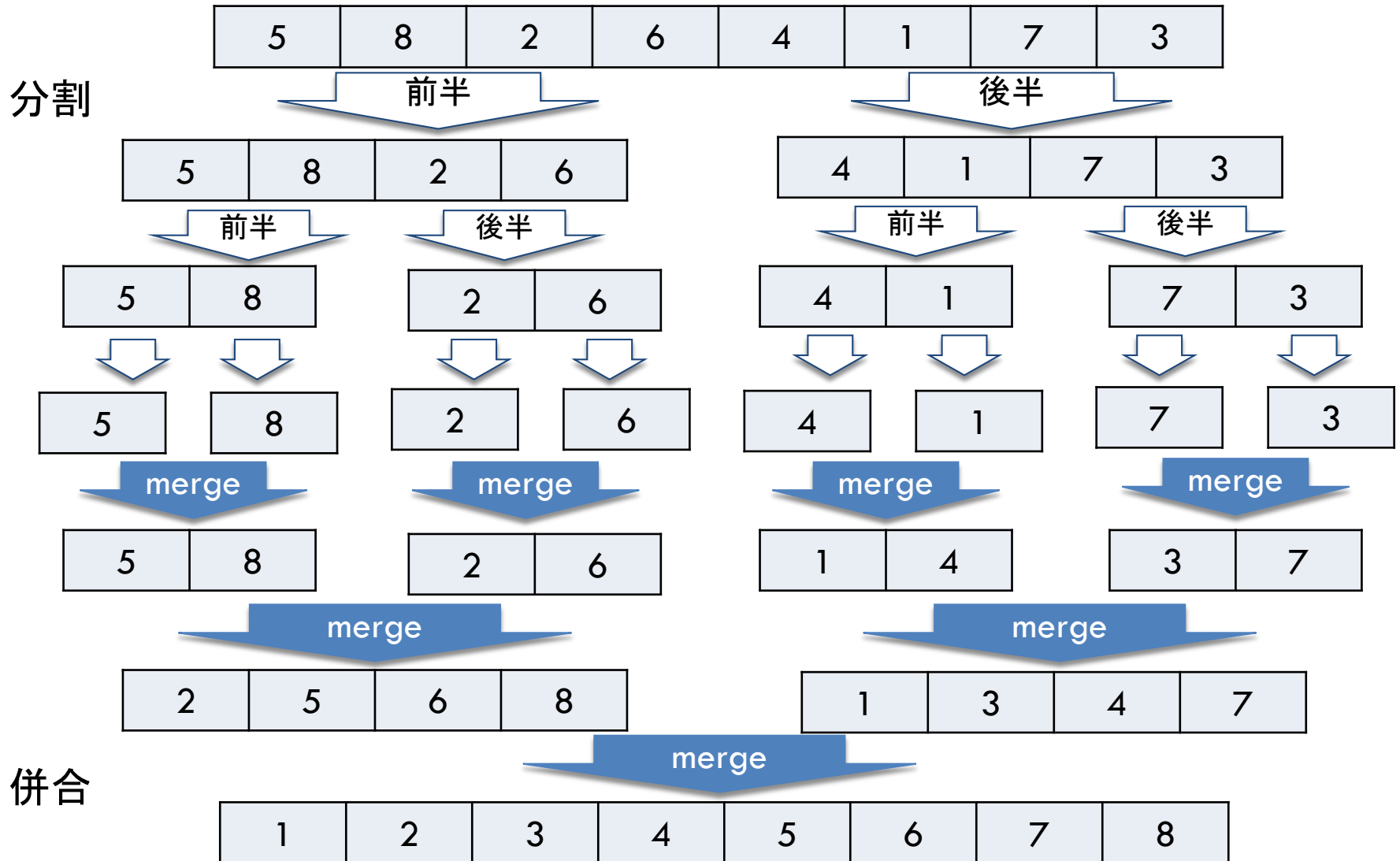
- 配列を要素数が半分ずつになるように、前半部分と後半部分に再帰的に分割していく
- 要素が1つになるまで分割したものは、整列済みとみなせる
- 分割とは逆に、整列済みの前半部分と後半部分を、再帰的にマージしていくと、配列全体のソートが完了する
- ただし、前半部分と後半部分をマージして同じ領域に入れなおすには、前半部分を退避して空けておくことが必要になる

□ 分割統治アルゴリズム

- 再帰的に、対象をいくつかの部分に分割し、それらの部分にも同様な処理を適用し、結果を再結合していくアルゴリズム
- クイックソート、マージソート、2分探索法など

マージソート(トップダウン型)の例

8

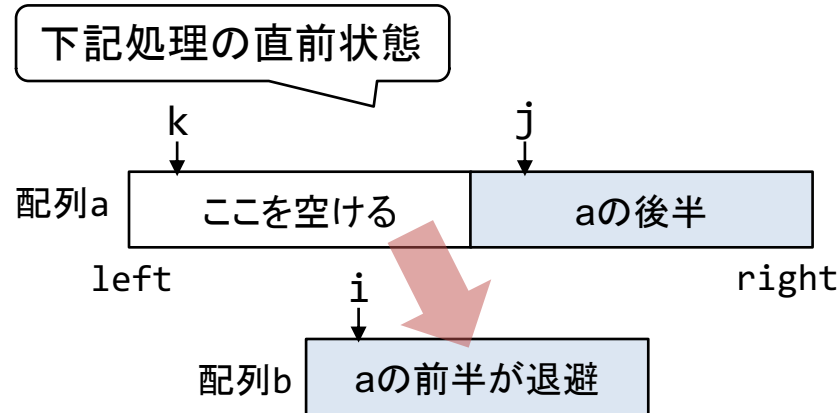


確認問題

9

- マージソート
 - ▣ 右は $a[\text{left}] \sim a[\text{right}]$ の中の前半部分を配列bに退避した後, $a[\text{left}]$ 以降にマージしなおすコードである。適切に空欄を埋めて完成させよ。
- 配列変化
 - ▣ マージソートで下記の配列を並び替えたときの内容の変化の過程を図示し, 値の比較と交換の回数を述べよ。

4	1	3	5	2
---	---	---	---	---



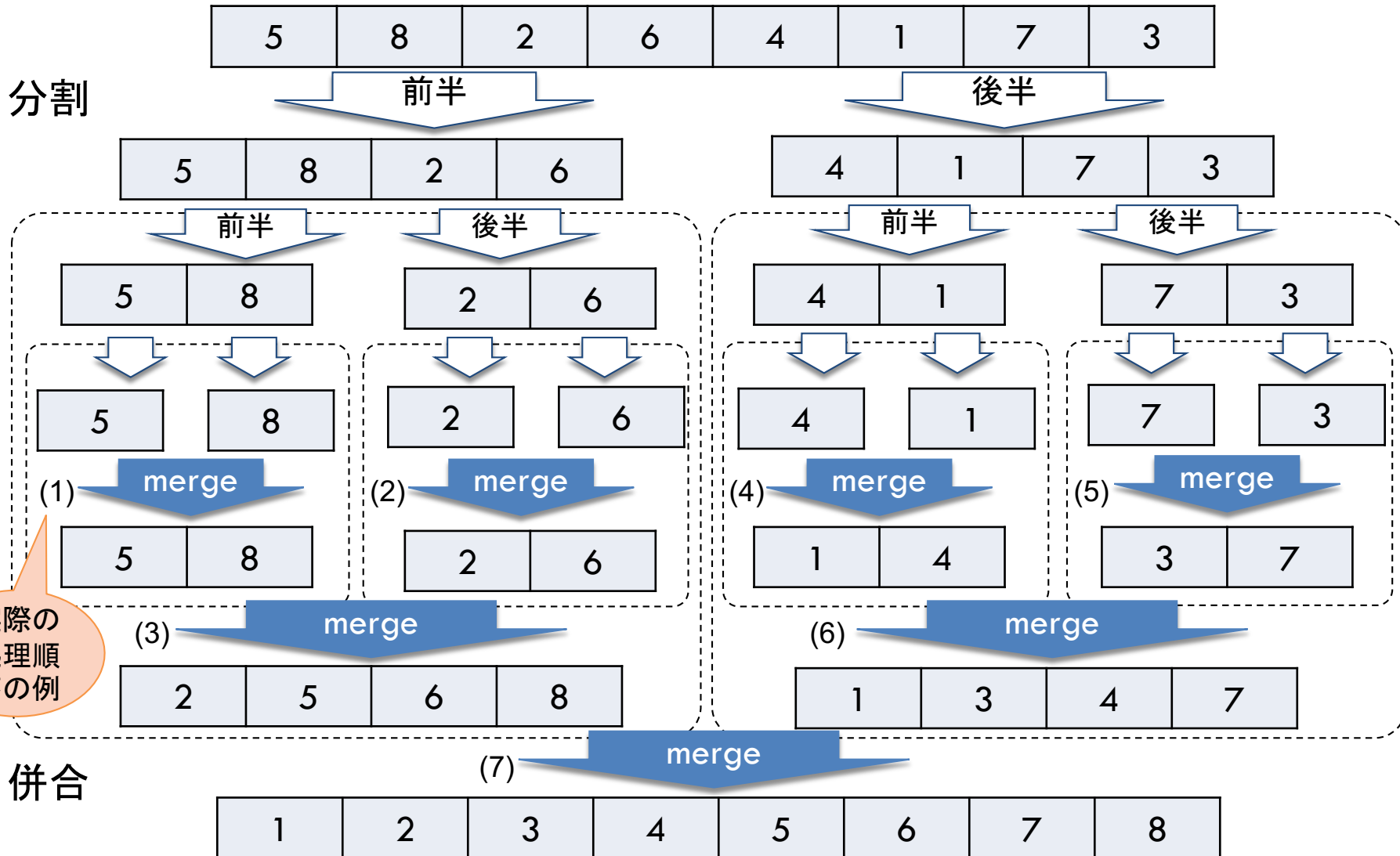
```

int i=0, j=mid+1, k=left;
while (k <= right) {
    if (i >= b.length)
        a[k++] =
    else if (j > right)
        a[k++] =
    else if (b[i] <= a[j])
        a[k++] =
    else
        a[k++] =
}

```

マージソートの処理順序の例

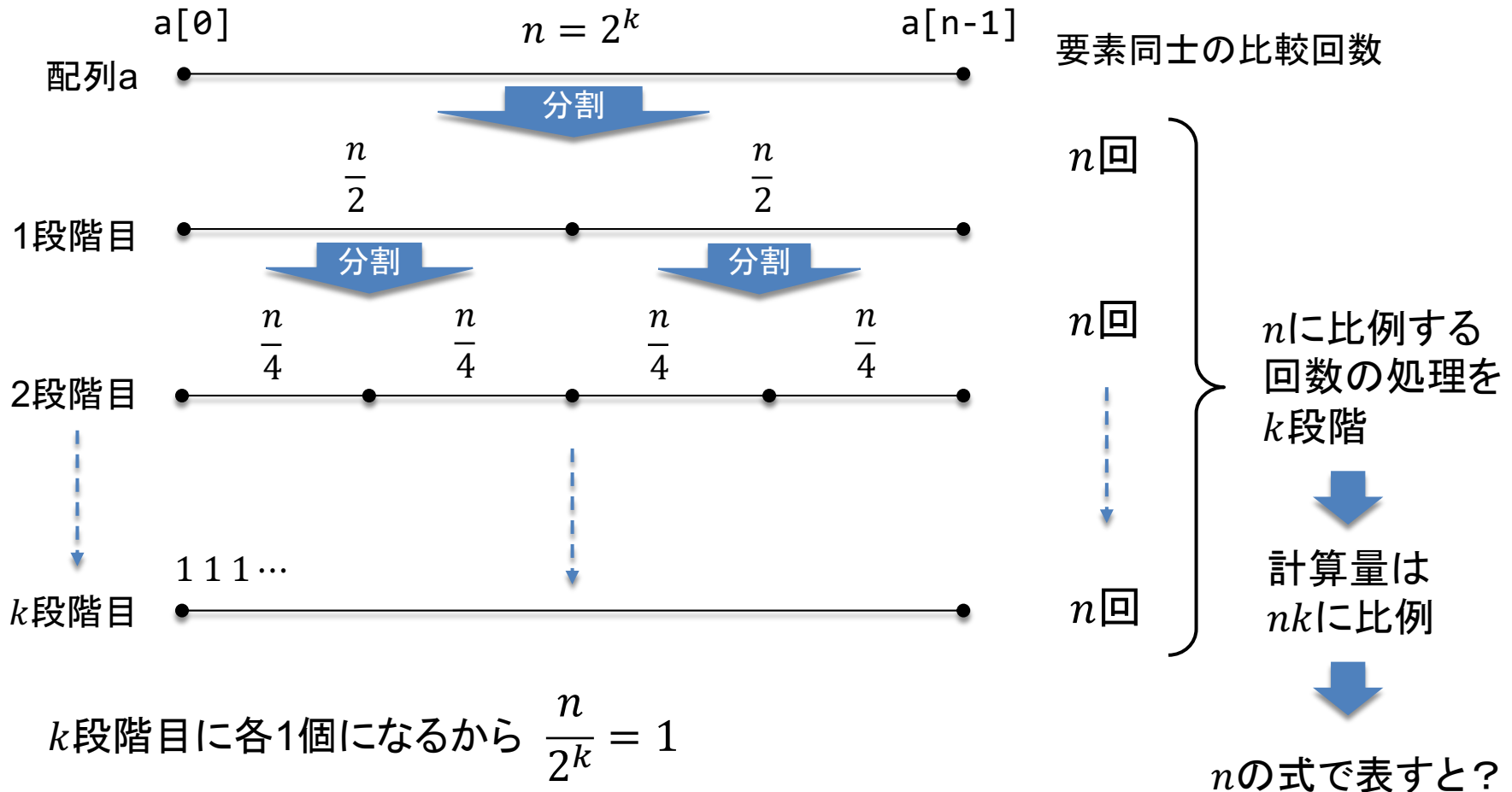
10



クイックソート/マージソートの計算量

11

理想的なクイックソートまたはマージソート



ソートアルゴリズムの特徴

12

- ソートの安定性
 - ▣ 同じ優先度の(キーが同じ)データの順序が維持されること
 - ▣ マージソートや前回の単純なソートは(順序が)安定である
 - ▣ クイックソートやシェルソートは高速だが(順序が)安定でない

- 内部ソート vs 外部ソート
 - ▣ 対象の配列の中で処理が完結するものを「内部ソート」という
 - ▣ マージソートは追加の記憶領域が必要な「外部ソート」である

- 比較ソート vs その他のソート
 - ▣ 通常のソートは要素同士をお互いに比較して交換していく
 - ▣ 要素の値(範囲)が少ない場合は, 分類によってソートできる

補足: クイックソートの平均計算量

13

要素数が n 個のときの平均比較回数を A_n と表すことにすると, 以下のように考察される。

$$A_1 = 0$$

$$A_2 = 2 + A_1 + A_1 = 2 + 2A_1$$

$$A_3 = 3 + \frac{(A_2+A_1)+(A_1+A_2)}{2}$$

$$= 3 + \frac{2}{2}(A_1 + A_2)$$

$$A_4 = 4 + \frac{(A_3+A_1)+(A_2+A_2)+(A_1+A_2)}{3}$$

$$= 4 + \frac{2}{3}(A_1 + A_2 + A_3)$$

よって, A_n はまず以下のように表せる。

$$A_n = n + \frac{2}{n-1} \sum_{k=1}^{n-1} A_k$$

さらに, ここで nA_{n+1} と $(n-1)A_n$ の式を縦に並べて引き算する。

$$nA_{n+1} - (n-1)A_n$$

$$= (n+1)n - n(n-1) + 2A_n$$

$$= 2n + 2A_n$$

この式を整理すると, 漸化式を作れる。

$$nA_{n+1} = (n+1)A_n + 2n$$

$$\frac{A_{n+1}}{n+1} = \frac{A_n}{n} + \frac{2}{n+1}$$

A_1 も考慮して A_n/n の一般項を求める。

$$\frac{A_n}{n} = 2 \left(1 + \frac{1}{2} + \frac{1}{3} + \dots + \frac{1}{n} \right) - 2$$

ここで, n が十分に大きければ,

$$1 + \frac{1}{2} + \frac{1}{3} + \dots + \frac{1}{n} \approx \log n + \gamma$$

となることが知られているので ($\gamma \approx 0.577$), 平均計算量は以下のように表される。

$$O(A_n) \approx O(n \log n)$$

補足: ボトムアップ型のマージソート

14

